

西区地域子育て支援拠点事業 有識者を交えた事業評価 実施概要

対象事業	西区地域子育て支援拠点事業
対象期間	令和3年度～令和5年度(3か年度)
事業の実施者	特定非営利活動法人シャーロックホームズ
	西区こども家庭支援課
実施目的	<p>1 これまでの3か年度の事業を振り返り、成果や課題、今後の方向性などを整理するために実施するものです。</p> <p>2 市民協働事業の実践を通じて経験を蓄積し、その後の市民協働や市民協働事業に活かしていくため、また、当該協働事業の当事者だけでなく、多くの市民等の協働への参加意欲を高めるため、当該評価を公開し、透明性を高めていくために実施するものです。</p>
振り返りの視点	<p>拠点事業は、区と運営法人との協働により進めています。毎年度、事業ごとに定めている「目指す拠点の姿」に沿って役割分担し、行動計画を立て、年度末には「振り返りの視点」に沿って取組の振り返りを行いながら事業を進めてきました。</p> <p>そこで、今回の事業評価は、「目指す拠点の姿」ごとに3か年度を取組を照らしながら行いました。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【参考】 拠点の7事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供（親子の居場所事業） 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること（子育て相談事業） 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること（情報収集・提供事業） 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること（ネットワーク事業） 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること（人材育成、活動支援事業） 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること（横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業） 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること（利用者支援事業） </div>
実施時期	令和5年5月～令和5年9月
実施方法	<p>1 拠点の7事業の「目指す拠点の姿」に対して、区及び運営法人それぞれの自己振り返りを実施しました。(令和5年5～6月)</p> <p>【参考】地域子育て支援拠点事業評価シート 4段階自己評価の意味 A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:まったくできなかった</p> <p>2 それぞれの自己振り返りをもとに、両方で内容を確認し、意見交換しながら相互振り返りを実施しました。(令和5年6～7月 計2回)</p> <p>3 相互振り返りをもとに、拠点事業に造詣の深い有識者を交えて、「西区地域子育て支援拠点事業有識者を交えた事業評価(相互評価のまとめ)」を実施しました(令和5年9月5日)。</p> <p>※振り返りに際しては、第三者の意見等を反映させるため、拠点利用者や区の乳幼児健診受診者等の子育て世帯、子育て支援の活動をしている方を対象に実施したアンケートの声も踏まえて実施しています。</p>

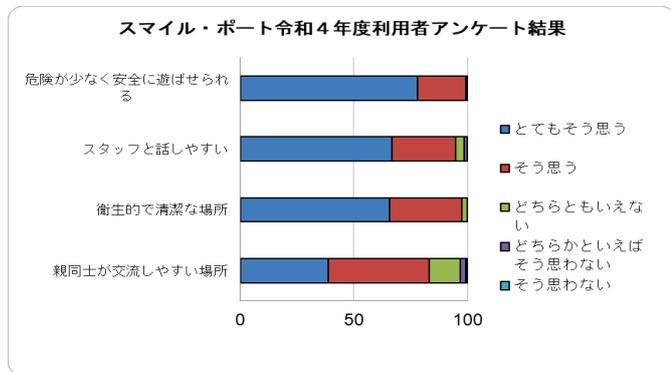
1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	○プレママの利用が増えないため、区と協力して周知に取り組む必要がある。 ○双子の利用者が増えないため、転入者を把握したうえで対応を行う必要がある。 ○土曜日の利用者が増えて混み合っているため、一人一人のニーズに応えていく工夫が必要である。 ○入場制限により利用できない親子が出てしまうことがある。(年10回程度) ○復職する人が増え、親子の育ちを限られた時間の中で支援できるように、居場所や事業において仕組みを作っていく。	A	A
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		B	A
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		B	B
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

	令和3年度	令和4年度
年間利用者数	16061人	16177人
新規登録者	983人	1179人
父親利用数	896人	884人
プレママ新規登録者	24	36



プレパママ参加人数	令和3年度		令和4年度	
	プレママ	プレパパ	プレママ	プレパパ
ミライデー	16	14	20	19
区委託プレパママクラス	-	-	51	48
合計	32		138	

	令和3年度	令和4年度
双子利用数(西区)	46人	130人

①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場

この2年間はコロナ禍で、人数制限や飲食禁止などの制約がある中、スタッフで工夫し、安全な環境を整備するとともに、常に笑顔で親子を迎え、入口や窓に季節感をとり入れた装飾を施すなど、ほっとでき安心できる場所づくりに努めた。利用者アンケートの結果からも「危険が少なく安全にあそばせられる」「スタッフと話がしやすい」という点が評価を得られた。
 ・「親同士の交流」については今後取り組みを強化していきたい。
 ・SNSでひろばの様子を発信するようにしたところ、それを見て来館する新規登録者が増えた。

②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場

・ひろばでのイベント「スマイルミライデー」(沐浴や着替え、先輩ファミリーとの交流等を行うプレパママ向けのグループイベント)を開催することで、区役所のプレパママクラスに行けなかった方のニーズに応えた。
 ・区役所開催及び委託実施のプレパママクラス参加者から、ひろば利用につながるプレパママが多いた。また、Instagramや公式LINEによるプレパママイベントでのPR活動からも、ひろば利用につながるプレパママがおり、プレパママのひろば利用が増加した。
 ・双子サークルと協働イベントを開催した結果、多くの多胎児保護者へ情報提供することができた。こんにちは赤ちゃん訪問と連携し、多胎児向けのチラシを配布して周知したのをきっかけに多胎児の利用が定着しつながりができた。
 ・父親支援として「パパ講座」を開催。そのつながりをきっかけに参加者による「パパトーク」というLINEミーティングが生まれ、父親の交流の輪が広がった。
 ・外国につながる親子向けの「やさしい日本語でおしゃべり」「親子ヨガ(YOKEと共催)」などのイベントや毎週英語が話せるスタッフがいない日などを設定することによって普段利用しない方の参加につながった。定期的な利用につながっていないのは課題である。
 ・発達に心配のある養育者のための「ゆるっとトーク」を定期的に開催した。気持ちを打ち明けられず1人で悩む保護者が多い中、実際に経験した保護者の話を聞くことにより不安が解消されている。
 ・「ダウン症児の親子の会」と「ダブルケアカフェ」では、同じ境遇の保護者同士が情報共有できるよう、交流する場を設けた。
 ・ワーキングマザーに対しての「復職カフェ」では、先輩ママの話を聞くことにより、復職したときの予測ができ復職に向けての準備をすることができた。
 ・オンラインイベントへの取り組みについて、令和3年度はコロナ禍で実施できない代替案としてオンライン開催を行っていたが、令和4年度はオンラインと対面のそれぞれの特性を生かし、イベントの内容によって使い分けて実施した。

③養育者と子どものニーズ把握の場

- ・全てのイベントや講座で参加者へのアンケートを実施した。また、オンラインで利用者からのご意見箱(スマイル・ポスト)を作成した。
- ・ニーズ把握に関するスキルアップにつながるよう、スタッフミーティングでの勉強会や外部の研修(傾聴に関する研修等)を実施した。

④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場

- ・養育者が地域に出かけて仲間とつながりを作る「スマイルつながるプロジェクト」を新たに企画し、低月齢児の保護者に向けて連続講座を4地域で開催することで、親自身が連携して自分たちの力で子育てをよりよくするためのきっかけ作りをしている。また、以前実施していた同じ趣旨の講座は平日の母親向けだったが、最終日を土曜日に設定することで父親の交流の場もつづけている。
- ・「生まれ！さばーたんさん&さばーたん」の企画を毎月実施し、ひろばで作業をしながら気軽に交流できるしかけを作った。
- ・0歳児向けの「親子ふれあいあそび」、0～1歳向けの「保育士さんとあそぼう」、幼稚園入園を控えた親子向けイベント「春から幼稚園へいく親子生まれ！」を行うなど、月齢に応じて子どもと触れ合うコツをつかめるように工夫した。

評価の理由(区)

①定例会開催時等に拠点に出向き、ひろばの環境が安心して過ごせるような配慮がされているか確認している。特に、新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策については、関係部署と連携しながら助言した。

②妊娠期の支援として、拠点でもプレパパママクラスを実施することで、妊娠期からの拠点利用につながっている。また、外国につながる方へのアプローチとして、母子健康手帳交付や乳幼児健診などの時期を捉えて、外国語版のスマイル・ポートのチラシを配布したり、外国につながる方向けのイベントのチラシを配布し、周知を行っている。

③ひろば利用者やイベント参加者へのアンケート等でニーズを把握している。また、区役所で把握した地域特性や課題を拠点と共有しながら、事業の内容に反映するなど、支援につなげている。

④母子健康手帳の交付時や母子訪問、乳幼児健康診査の際などに、拠点のひろば機能を積極的に周知するとともに、養育者の個別性に合わせて、ひろばの利用につなげた。また、拠点が実施する事業の開催方法や講師の選定方法等について、ともに検討し助言を行っている。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・新型コロナウイルス対策をはじめとし、安全で安心な環境を整えることで、親子が安心して過ごせる場所を提供することができた。
- ・母子健康手帳交付時の面談時に周知を行ったほか、拠点でもプレパパママクラスを実施したことで、妊娠期からの拠点利用につながるなど、妊娠期の支援を強化することができた。

(課題)

- ・ここ数年間はコロナ渦ということもあり、親同士の交流が難しかった。
- ・オンラインによるイベントも実施したが、馴染むものとそうでないものがあるため、イベントの実施方法については内容によって検討していく。
- ・外国につながる方が増えているため、ニーズを把握しながら支援していく必要がある。

振り返りの視点

ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。

イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。

ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。

エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。

オ 把握されたニーズを区関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。

カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。

キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学ぶ機会を提供する場となっているか。

ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	○相談件数や内容について、区の特性による課題の抽出ができていない状況である。 ○利用人数の少ない個別相談事業については、これまで開催日時等を見直していないため、検討が必要。	A	A
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

	R3年度	R4年度	●年齢別ひろば相談内容 (R4年度)			
ひろば相談	1129件	1037件	0歳	①子どもの発育	②子どもの生活	③親自身
個別相談	285件	267件	1歳	①子どもの発育	②子どもの生活	③親自身
オンライン相談	0件	1件	2歳	①子どもの発育	②子どもの生活	③就園・就学
臨床心理士相談	24件	27件	3歳	①就園・就学	②親自身・子どもの生活・子どもの発育	
助産師相談	39件	40件	4歳以上	①就園・就学	②子どもの生活・親自身	
保育コンシェルジュ相談	38件	38件				

①安心して、気軽に相談できる場

- ・ひろばでの何気ない会話や子どもとのやりとり・声掛けを通して信頼関係を作るなど、気軽に相談できる雰囲気を作った。
- ・相手に寄り添いながら傾聴する相談を心がけることで、養育者が安心して相談できる場になっている。
- ・ひろば内での相談のほか、オンライン相談、個別相談、グループ相談など様々な形で相談が受けられる体制を作った。
- ・相談に応じて、拠点内の専門相談(臨床心理士相談・助産師相談・保育・教育コンシェルジュ相談)を紹介しつなげた。
- ・スタッフがひろばで受けた相談を、必要に応じて子育てパートナーや子育てサポートシステムにつなげて、多面的なニーズに応えられるようにした。
- ・西区実践交流研修・初任者研修・18区施設長会主催の研修などで、地域資源やスタッフの傾聴方法、実際の親子の悩みなどを学び、スキルアップを図っている。
- ・毎日の反省会では、成長発達のこと、保育園幼稚園のこと、親自身のこと等、相談内容を共有し、振り返りを行うことで、いつでも誰が来ても次の相談に生かせるような体制を作った。

②関係機関との連携と継続的なフォロー体制

- ・区と連携し、各専門機関の役割も把握し、支援ができる体制を作った。
- ・専門的対応が必要と考えられる相談は、区と相談しながら対応した。
- ・関係機関と継続的に関わる世帯については、区と随時報告し合い情報を共有することができた。
- ・専門機関につなげた後も、必要に応じて継続的に支援を行った。

評価の理由(区)

- ①母子健康手帳の交付時や母子訪問、乳幼児健康診査の際などに、拠点で子育て相談ができることを積極的に周知している。また、相談内容について拠点と適宜共有するとともに、対応方法等についてともに検討したり、助言をしたりしている。その他、相談スペースが安心して相談できる環境になっているか確認している。
- ②専門的対応が必要な世帯について、拠点から他の相談機関へのつなぎ方や相談先をともに検討したり、助言したりしている。また、拠点が対応した世帯が区や関係機関とつながった後も、拠点と役割分担の確認や情報共有を行っている。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・相談方法について、電話・オンライン・個別・グループなど、様々な形で行うなど、相談者のニーズや相談内容に合わせて対応をすることができた。
- ・関係機関と継続的に関わる世帯については、互いに情報共有を行うなど、丁寧に事後フォローをすることができた。
- ・相談内容をスタッフ間で共有することで、対応したスタッフが不在の場合でも対応ができる体制を整えた。また、事例を共有することで、スタッフの知識を深めることもできた。

(課題)

- ・引き続き、研修や日々の相談業務を通して、相談者側のスキルアップを図っていく。
- ・相談業務の中で出てきた悩みや困りごとを、どのように拠点の運営に生かしていくか、引き続き検討していく。

振り返りの視点

- ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。
- ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。
- エ 各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。
- オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、適切に対応しているか。
- カ 関係機関とつながった後も、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

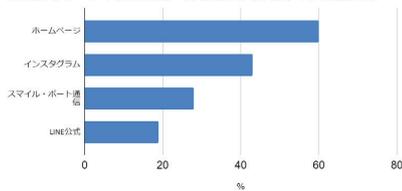
3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	○区内外から寄せられる情報が多岐にわたるため、提供する情報の取捨選択の必要が生じている。 ○区(市)外からの転入者に対して、拠点の機能について、情報提供の機会や方法等を検討する必要がある。	B	B
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		B	B
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		B	B

評価の理由(法人)

情報ツール一覧	
スマイル・ポート通信	年12回発行/2500部/館内で利用者に配布の他、区内約190か所に配布
西区子育て航海図(マップ)	年1回発行/5000部/館内で利用者に配布の他、区内約130か所に配布
ホームページ	カレンダー、基本情報の周知
Instagram	拠点や地域の情報を随時画像付で配信。法人交代時フォロワー数270
LINE公式	拠点のイベントや地域の最新情報を毎週土曜日に配信。H4.1月開始。
フェイスブック・Twitter	アカウント取得。運用はこれから
LINE連絡用	支援者連絡用、および利用者とのLINEグループでの連携

利用者アンケート「どの情報ツールを利用しているか？」(複数回答)



	R3年度末	R4年度末	前年比
HPアクセス数	73,543	113,503	154%
HP訪問者数	14,870	23,453	158%
インスタフォロワー数	763	1219	160%
LINE公式登録者	161	497	309%

※HPアクセス数：HPの各種ページを見るたびにカウントされる数の総数（一人が各種ページを見ると累積でカウント）
 ※HP訪問者数：その日HPを閲覧した人数

①子育て支援情報の収集・提供

- ・養育者にとって必要な情報をHPやSNS、LINE配信など様々なツールを使って発信することで、拠点を利用していない人、月刊紙「スマイル・ポート通信」を手にとることができない養育者にも子育て支援の情報を発信することができた。
- ・情報収集にあたっては、子育て支援団体との連絡手段にLINEも加えてレスポンスを早くするとともに、スタッフが子育て支援団体へ巡回訪問することで、より生の声を収集することも心掛けている。また、養育者の関心の高い、保育園、幼稚園情報については定期的に情報を聞きとり更新して、館内で見やすく掲示している。
- ・法人が運営している他部門の情報発信事業との連携で(横浜子育て情報スポットにて拠点のダブルケアイベントの紹介記事を掲載/情報紙ベイ★キッズマガジンの子育てに関する記事を拠点で掲示、配布等)、より幅広い情報収集や発信が可能となった。
- ・拠点で行う講座系のイベントでは、オンラインにも対応するなど色々な方法で子育てに関する情報入手ができるよう工夫をした。

②区民への周知

- ・区と協力して、広報よこはま西区版にスマイル・ポートの情報収集発信機能の紹介をした。
- ・スマイル・ポートの紹介動画を制作し、乳幼児健診時に放映する等、周知する際に活用している。

③養育者や担い手の関わり、他機関との協力

- ・幼稚園、保育園情報について、養育者から集めたコメントをファイルにまとめて掲示し、誰もが手にとりやすいように工夫している。
- ・その他、「おしえて！幼稚園」「どんぐりのある公園」などテーマを決めて館内でコメントを記入してもらい、来館者に見てもらうコーナーを作った。また、LINEとひろばで毎月養育者の興味のあるテーマを募集し、その結果を通信に反映できるよう仕組みづくりをした。

評価の理由(区)

- ①子育てガイドブック(西区子育て航海図)をともに作成し、子育て情報を集約しているほか、保育・教育コンシェルジュが拠点に出向き、保育情報等の情報提供を行っている。また、拠点が毎月発行している「スマイル・ポート通信」やホームページ等の広報物について、内容確認を行うとともに、より情報が読者に伝わりやすくなるよう助言を行っている。
- ②広報よこはま西区版でもスマイル・ポートの周知を行っているほか、母子訪問や乳幼児健康診査等の養育者と関わる場面においても、子育て情報が集約されているスマイル・ポートのホームページやSNSの紹介を行っている。さらに、乳幼児健康診査時にスマイル・ポートの紹介動画を放映し、拠点に相談機能があることを周知している。その他、毎年子育て施設パネル展(幼稚園・保育園等)を区民ホールで開催し、情報発信の場を提供している。
- ③子育て支援者やこんにちは赤ちゃん訪問員が拠点を紹介できるよう、拠点事業の共有を行っている。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

・「スマイル・ポート通信」や「子育てガイドブック(西区子育て航海図)」など、紙媒体での情報発信を行ったほか、ホームページやSNS(LINE、Instagram)など、様々なツールでも情報発信をすることで、より多くの方に情報を発信することができた。また、「スマイル・ポート通信」やスマイル・ポートのホームページについては、リニューアルすることでより見やすくなり、受け手に伝わりやすくなった。

(課題)

- ・情報収集・発信に、養育者や担い手が関わる仕組みについて、引き続き検討していく。
- ・地域の担い手の情報発信について、必要に応じてLINEなどのSNS機能の活用ができるようサポートする。

振り返りの視点

- ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。
- イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。
- ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。
- エ ネットワークを活かして情報を収集し、を養育者や担い手に提供しているか。
- オ 様々な子育て支援情報を拠点が集め、提供していることを広く区民に周知しているか。
- カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。
- キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	○地域特性や地域課題を区と拠点で共有する機会がなかった。地域の特性に応じた支援方法を検討していく必要がある。 ○今後は、地域活動における次世代の担い手育成が必要。	B	B
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		B	C

評価の理由(法人)

(主なデータ)

	R3年度	R4年度	項目	内容
地域の親子の居場所訪問	21か所	50か所	第六地区子育て連絡会参加	毎月の連絡会に出席。毎年防災イベントに参加
西区子育てひろば連絡会開催	1回	3回	子育て関連施設連絡会(センター園※として)参加	各施設のPRパネルを集め、区役所とスマイル・ポートで掲示
出前合同育児講座(センター園として)参加	13回	13回	出前合同育児講座(センター園として)参加	企画運営する立場として令和3、4年度共に全地区13回参加。拠点利用者を地域につなぐとともに各地区の親子や園の状況を把握。
親と子のつどいの広場訪問	8回	8回	センター会議(相談窓口のある専門機関ネットワーク)参加	年10回程度出席し、区民がどこからでも相談できるよう相談窓口の連携を図り、勉強会をしたり、周知のための活動を実施。
子育て支援活動者向け研修会・交流会開催	0回	2回	○△の会参加	障害のある親子のための区主催の会に毎回パートナーが運営側として関わり、安心して参加できるよう配慮し、その場での相談にも応じている。
スマイル・つながるプロジェクト実施回数	3回	4回	神奈川県や公園愛護会とのネットワーク	学生と連携しMM地区の公園のイベントに出店し、地域住民への拠点事業の周知を図った。
			地域ケアプラザとの連携	共催で親子向け救急救命講座を実施。ダブルケアイベントへの参加要請
			にしとも広場(区民活動支援センター)との連携	共催イベントの実施及び地域づくり大学への参加
			横浜市国際交流協会との連携	スタッフ研修・外国につながる親子向けイベントの開催

①地域の子育て支援活性化のためのネットワークの構築

- ・初年度はコロナ禍で支援の制限もあり、地域子育て支援団体とのネットワークの構築が遅れたが、既存の会議等に出席して西区内にあるネットワークにつながることにつとめた。(センター会議・子育て関連施設連絡会・地域ケアプラザとの個別の連携・にしとも広場・西区自立支援協議会・第六地区子育て連絡会・横浜市国際交流協会)その中で、育児支援センター園として、出前合同育児講座やPRパネル展で中核的な役割を担いつつ、地域の子育て関連施設(保育園・幼稚園・親と子のつどいの広場)とのつながりを深めた。また、新たに主任児童委員との意見交換の場を持った。
- ・2年目はさらに積極的にネットワークの輪を広げた。中央図書館との連携や区社協の児童福祉分科会のメンバーとして事例(団体)発表を行うなどの活動をした。
- ・子育てひろば連絡会を開催し、親と子のつどいの広場と区、拠点での情報交換をする場を設けた。
- ・子育て支援センター園として、「育ちと関わり」プロジェクトメンバーとなり、色々な園の先生方との連携を深めた。
- ・地域の子育て支援の活動者との連携を深めるために、公式LINEとは別にLINEアカウントを取得、連絡ツールとして活用。
- ・にしとも広場の「ゆるとも西」に参加し、多分野にわたる区民利用施設とのつながりも広げた。
- ・法人がもつ縁から、NPO法人アクションポート横浜や神奈川大学経営学部との連携し、さらにみなとみらい高島中央公園愛護会とつながることもできた。また、みなとみらい本町小ともイベントを通じてつながりができた。
- ・にしとも広場で開催している「地域づくり大学校」にオブザーバー参加し、子育て支援活動をしようとしている参加者とのつながり、その後活動の周知やスマイル・ポートでの開催などの協力をしている。

②ネットワークを活かした拠点利用者の地域へのつなぎ

- ・初めて拠点を訪れた養育者に向けて、地域の子育て支援情報を丁寧に伝え、身近な支援の場につなげている。
- ・年4回実施する連続講座「スマイル・つながるプロジェクト」(再掲)にて、参加者とともに地域の子育て支援の場を訪問することで養育者たちが地域につながるきっかけを作っている。
- ・にしとも広場との連携で発達に気になる養育者むけの講座を実施した。また、にしとも・プレイパークネットワークとの連携で近隣の小学校の協力も得て外イベント「みちあそび」も実施した。(いずれもにしとも広場にて)
- ・中央図書館と共催で「図書館へ行ってみよう」イベントを実施(中央図書館にて)
- ・区内のプレイパーク開催日に子育てパートナーが出張することで、その場にいる拠点を知らない地域の養育者へ通信を配布して周知したり、逆に興味があってもまだプレイパークに行ったことなかった拠点利用者を現場へつないでいる。(年2回実施)

評価の理由(区)

- ①西区子育て関連施設連絡会として、拠点や保育所・幼稚園等と連携して、地域に出向いて育児講座を実施するなど、地区ごとのつながりを強めている。また、「子育てひろば連絡会」として、拠点、親と子のつどいの広場、区の3者で意見交換等を行っている。今後は育児支援センター園や子育てひろば実施園等も交えて、ネットワークを広げていきたい。
- さらに、そのネットワークを生かして、子育て支援の場に訪問した際に、気づいた地域課題等についても共有していきたい。
- ②「スマイルつながるプロジェクト」(再掲)等の拠点が実施している事業について、赤ちゃん教室等、区の事業の場で周知している。今後は、拠点で実施したネットワーク事業の振り返りを行い、区が把握している地域資源を活用できるよう、助言を行う。さらに、養育者への周知方法についても検討していく。

拠点事業としての成果と課題

- (成果)
- ・様々な団体の会議や活動の場に足を運び、顔の見える関係をつくるなど、つながりを広げることができた。また、令和3年度に西区内にキャンパスを移転した神奈川大学とも連携して活動するなど、積極的につながりを広げることができた。
 - ・育児支援センター園として、「出前合同育児講座」や「子育て関連施設PRパネル展」など、「子育て関連施設連絡会」における取組について、中核的な役割を担った。
- (課題)
- ・地域の特性に合わせたネットワークの構築・推進について、手法等を検討していく必要がある。また、構築したネットワークをどのように活用していくかも検討していく。

振り返りの視点

- ア 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。
- イ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。
- ウ 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、子育て支援分野に限らず、様々な社会資源と連携・協力した取組を実施しているか。
- エ 養育者や子育て支援活動に関心のある人を身近な地域の子育て支援の場や地域の活動につなげているか。
- オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧に受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができています。	○サークルリーダー研修等を通じて、地域の自主的な活動に結び付けていく必要がある。 ○地域で子育てをしていた方をボランティアとしてあまり受け入れられていないため、そのような方々を積極的に ボランティアとして受け入れ、子育てに関するノウハウを活かして活躍する機会作りが必要である。	B	B
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		B	B
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		B	B
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

【子育てサークル】	R3年度	R4年度
サークル数	6サークル	6サークル
サークル研修参加サークル数計	5サークル	5サークル
サークル研修のべ参加組数計	20組	21組
第1回	6組	3組
第2回	9組	8組
第3回	5組	10組

【外部受入れ人数】	R3年度	R4年度
学生受け入れ(実習含)	24	49
社会人ボランティア	2	3

①担い手への活動支援

- ・サークル研修を年3回実施し、活動している親子の悩みや疑問について丁寧に聞き取りを行った。令和3年度に2サークル休会。令和4年度2サークル活動開始。
- ・日頃から、子育て支援の場を巡回し、支援の状況把握だけでなく、活動の悩みなども聞き取っている。
- ・令和4年度は、担い手向けワークショップと交流会を実施した。
- ・「子育て航海図」(子育てマップ)で、団体紹介部分の刷新をした。また、スマイル・ポート通信で地区別の団体の紹介を7か月にわたって掲載し、養育者に周知した。
- ・担い手からの依頼に応じてHPに中止や開催についての即時のお知らせを掲載するとともに、コロナ後再開してもなかなか人数の増えない活動の場についてInstagramで紹介し、参加者を増やした。
- ・新しく区内で活動を始めた団体よりMM地区での開催場所を探しているという相談を受け、休館日に活動の場を提供した。

②養育者への周知と新たな担い手の発掘

- ・養育者自身がサポートする気持ちをもって参加できるプロジェクトを開始した。(「あつまれ！さぼーたーさん&さぼーたん」)ただし、継続的なボランティア活動にはつながっていない。
- ・新たにサークルを立ち上げたいという希望者向けに説明会を実施し、実際に新しいサークルが生まれた。
- ・父親支援の講座からLINEグループが立ち上がり、当事者で運営し、地域の情報交換などでつながりを深めている。
- ・スマイル・つながるプロジェクト(再掲)では、地域の場を訪問したことで、養育者が地域を身近に感じ、関心をもてるように働きかけた。また、家族を対象に土曜日に地図を使った防災ワークを実施することで、地域への意識・関心を高めた。
- ・シニアボランティアの募集などについては今後の課題。

③市民への子育て家庭を見守る雰囲気づくり

- 令和3年度
- ・スマイル・ポートのロゴとキャラクターをタウンニュースや広報よこはま、HPにて公募し、結果もタウンニュースに掲載し、子育て支援への関心を高める工夫をした。
- 令和4年度
- ・高島中央公園のパークデイ実施前に、みなとみらい地区の2000戸にチラシを配布、イベントの告知だけでなく、拠点の機能と子サポの周知に努めた。
- ・秋の区民祭ブースにて、子サポとともにスマイル・ポートののぼりもたて、キャラクターの顔はめパネルを展示するなど、周知を図った。
- ・育児や介護など二つ以上のケアが重なってる養育者のためのトークの会「ダブルケアカフェ」を令和4年2月に実施した後、法人から調整して、タウンニュースに子育てパートナーへの取材記事を掲載してもらい、「ダブルケア」と、「子育てパートナー」の周知を図った。

④未来の養育者への子育てへの関心や学びの機会の提供

- ・プレパパママクラスで他のひろば利用者との交流を図れる場を提供。
- ・看護学部の学生の実習の受け入れを実施。地域子育て支援拠点のレクチャーをし、ひろばの親子とのふれあい体験を通し、子育て支援拠点の役割と養育者の思いを知ってもらう機会を作った。
- ・神奈川大学経営学部の学生と出張ひろばを企画、実施。事前に拠点での実習を通して実際の子育てにふれてもらった。
- ・NPO法人アクションポートよこはまの大学生にひろばイベントとアフター交流会で親子と触れ合ってもらった。

評価の理由(区)

- ①地域の子育て支援活動の担い手からの相談に対応し、拠点にも共有している。また、地域の担い手向けに研修会を実施し、担い手のスキルアップを図った。
- ②西区子育てサークル研修会を拠点とともに検討・実施するなど、子育てサークルへの支援を行っている。今後は、地域の子育て支援に関心をもつ養育者を活動の場につなげる。
- ③地域における様々な子育て支援の取組を紹介するため、広報よこはま西区版に紹介記事を掲載したり、子育てガイドブック(西区子育て航海図)を作成・配布を行っている。今後は、広報よこはま等を活用して、子育ての現状等を広く周知し、より子育て支援に関心を持ってもらう。
- ④妊娠期から子育てについて考え、学び合えるよう、拠点でもプレパパママクラスを開催している。また、区役所で開催しているプレパパママクラスでも、拠点スタッフが来て拠点を紹介する時間を作っている。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・子育てサークルや担い手向けに研修やワークショップを行うなど、地域の子育て支援活動者のスキルアップを図った。
- ・地域の子育て支援活動の担い手から寄せられる相談に対して、区と拠点それぞれができる活動支援を話し合いながら進めることができた。

(課題)

- ・地域の子育て支援活動者について、担い手の高齢化等により担い手が不足している。世代交代等が円滑にできている地域の事例を参考にしながら、対応していく必要がある。
- ・未来の養育者となる市民(中学生等)を対象にした、子育てへの関心を高める活動について検討していく。

振り返りの視点

- ア 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。かつ新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- イ 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- ウ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- エ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- オ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- カ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- キ 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ク これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	○子育てサポートシステムの認知度をどうあげていくか。 ⇒特に拠点等に行かない人たちに対してどう周知していくか。 ○特定の提供会員に活動の偏りがある。より多くの提供会員の登録を促すため、事業の周知を行う。	B	B
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		B	B
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		A	B
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		A	B

評価の理由(法人)

<table border="1"> <tr> <th>会員数</th> <th>R3年度末</th> <th>R4年度末</th> </tr> <tr> <td>利用会員</td> <td>325</td> <td>373</td> </tr> <tr> <td>提供・両方会員</td> <td>54</td> <td>60</td> </tr> </table>	会員数	R3年度末	R4年度末	利用会員	325	373	提供・両方会員	54	60	<table border="1"> <tr> <th>ひろば預かり</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> <tr> <td></td> <td>19</td> <td>64</td> </tr> </table>	ひろば預かり	R3年度	R4年度		19	64	<table border="1"> <tr> <th>保護者の勤務の場合の援助</th> <th>西区 R3年度→R4年度</th> <th>18区全体 R3年度→R4年度</th> </tr> <tr> <td>常勤</td> <td>65.5%→61.8%</td> <td>54.3%→56.8%</td> </tr> <tr> <td>短時間・臨時的</td> <td>2.8%→4.8%</td> <td>7.6%→8.0%</td> </tr> </table>	保護者の勤務の場合の援助	西区 R3年度→R4年度	18区全体 R3年度→R4年度	常勤	65.5%→61.8%	54.3%→56.8%	短時間・臨時的	2.8%→4.8%	7.6%→8.0%
会員数	R3年度末	R4年度末																								
利用会員	325	373																								
提供・両方会員	54	60																								
ひろば預かり	R3年度	R4年度																								
	19	64																								
保護者の勤務の場合の援助	西区 R3年度→R4年度	18区全体 R3年度→R4年度																								
常勤	65.5%→61.8%	54.3%→56.8%																								
短時間・臨時的	2.8%→4.8%	7.6%→8.0%																								
<table border="1"> <tr> <th>一人の提供・両方会員が支える利用会員数</th> <th>西区(18区で一番多い)</th> <th>旭区(18区で一番少ない)</th> <th>18区平均</th> </tr> <tr> <td></td> <td>5.05人</td> <td>2.14人</td> <td>3.50人</td> </tr> </table>	一人の提供・両方会員が支える利用会員数	西区(18区で一番多い)	旭区(18区で一番少ない)	18区平均		5.05人	2.14人	3.50人																		
一人の提供・両方会員が支える利用会員数	西区(18区で一番多い)	旭区(18区で一番少ない)	18区平均																							
	5.05人	2.14人	3.50人																							
<table border="1"> <tr> <th>入会説明会</th> <th>回数</th> <th>組数</th> </tr> <tr> <td></td> <th>R3年度→R4年度</th> <th>R3年度→R4年度</th> </tr> <tr> <td>集団</td> <td>21→24</td> <td>59→99</td> </tr> <tr> <td>個別</td> <td>107→86</td> <td>107→86</td> </tr> <tr> <td>出張</td> <td>1→8</td> <td>4→17</td> </tr> </table>	入会説明会	回数	組数		R3年度→R4年度	R3年度→R4年度	集団	21→24	59→99	個別	107→86	107→86	出張	1→8	4→17											
入会説明会	回数	組数																								
	R3年度→R4年度	R3年度→R4年度																								
集団	21→24	59→99																								
個別	107→86	107→86																								
出張	1→8	4→17																								

①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。
⇒(西区支部では) 継続的な周知活動と会員数の増加
・スマイル・ポートでの入会説明会だけでなく、親子のつどいの広場や子育てサロンでの出張入会説明会を実施し、拠点へのアクセスが難しい人にも対応した。令和3年度から令和4年度で利用会員・提供会員とも増加している。
・西区民まつり、みなとみらい地区パークデイ、区役所掲示板、広報、タウンニュース等で積極的に子サポを周知した。
・ひろばでのプレパパママ向けイベント、ひろばデビューイベントにて子サポの紹介を実施し、入会説明会参加へとつなげた。

②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。
⇒(西区支部では) 西区特有の会員属性への柔軟な対応とひろば預かりの促進
・フルタイム勤務の養育者が多い西区では送迎および送迎+預かりが多く、遅い時間の活動の希望も多い。対応できる提供会員の調整を図りながら、利用会員の希望する活動内容に対応した。しかし、常勤で働く忙しい利用会員に対して、地域のつながりの大切さを理解してもらう難しさを感じ、その方法を模索している。
・令和4年5月から、初めての預かりへのハードルを下げるため気軽にひろばで子どもを預けられる「スマイル・ホッと預かり(ひろば預かり)」をスタート。ひろば預かりが大幅増となった。(令和3年度19件→令和4年度64件)
少しの時間預けることで保護者のリフレッシュを促進。さらに、子どもを預けるために必要なことについてコーディネーターと打ち合わせを重ねることで、自身の子育てを振り返るきっかけを提供した。
・年度の登録更新時、用紙での更新に加えweb更新への移行を促進。
web更新率 令和4年度82.8%→令和5年度92%。
来年度稼働予定の新システムの下地作りともなった。

③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。
⇒(西区支部では) 交流会・座談会・研修会の実施による会員間の情報共有の促進
・提供会員向けの交流会・座談会を実施。フラワーアレンジメントやハーバリウム等を作りながら、提供会員としての苦労やヒヤリハット等の情報共有を行い、よりよい活動につなげた。
・緊急救命講習を実施。いざという時に備え、安全な活動となるようサポートした。
・経験の浅い提供会員にホッと預かり(ひろば預かり)を担当してもらうことで、経験を積み活動への自信をもってもらうことができた。

④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。
⇒(西区支部では) 丁寧な聞き取りによるコーディネートと案件フォロー
・利用会員の希望にできるだけ寄り添いつつ、提供会員にとってもより良い活動がしやすいよう調整した。
・提供会員の活動報告書提出時やコーディネートの電話連絡の際に、担当案件について聞き取りを行い情報を共有した上で、提供会員が困難を感じている案件には継続的にフォローを行った。必要な場合は、子育てパートナーと連携し、より具体的なサポートを行った。

評価の理由(区)

①～③乳幼児健康診査や母子健康手帳交付時等に、子育てサポートシステムの周知を行っているほか、広報よこはま西区版やタウンニュースなどの広報物のほか、区民まつりでも提供会員を募集している。定例会時に子育てサポートシステムの現状を確認しながら、提供会員の確保に向けた周知方法等の対策を検討する必要がある。
 ④必要時に子育てサポートシステム以外のサービス等の情報提供や関係機関に適切につなぐことができるよう、入会説明会や研修会の内容、具体的な活動や利用者の様子についても区として把握する必要がある。

拠点事業としての成果と課題

(成果)
 ・養育者がより気軽に利用ができるよう、令和4年5月から「スマイル・ホッと預かり(ひろば預かり)」を開始した。従前から実施している通常のひろば預かりと異なり、あらかじめ日時を決めて予約枠を設けることで、子どもを預けることを躊躇しがちな養育者に声を掛けやすくなった。その結果、利用も大幅に増え、養育者のリフレッシュを促進するとともに、初めて子どもを預けることへの不安感を軽減することができた。また、本事業は提供会員として経験の浅い会員が、安心して子どもを預かることができる環境にもつながっており、提供会員が経験を積み、成長する場にもなっている。
 ・提供会員向けに交流会・座談会を実施することで、提供会員同士の情報共有を促進した。また、緊急救命講習を実施するなど、安全な活動となるようサポートも行った。

(課題)
 ・提供・両方会員1人あたりが支える利用会員数が18区で一番多く、提供会員が不足している。さらに、利用会員にはフルタイム勤務の養育者が多いことから、保育園の延長的な利用が多く、対応できる提供会員が少ない。提供会員確保のため、地域に向けて周知を行うとともに、既存の会員が継続していけるよう、引き続き支援を行っていく。

振り返りの視点

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を含め、利用したい人が利用に結びつくための工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに安心安全な活動できるよう、丁寧なコーディネートができていますか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や追加のフォロー等を行っているか。
- カ 活動における事故防止のための講習、個人情報取扱いに関する注意喚起など、会員への安全対策をはかっているか。
- キ 提供・両方会員が安心・安全な活動を継続して行えるよう研修会等の取組がなされているか。
- ク 会員が活動の意義を感じられ、会員間の親睦を深め信頼関係の構築のため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ケ 援助活動の調整時や会員の声から把握した子育てのニーズを地域子育て支援拠点としての事業に活かしているか(新たな事業の実施や事業の見直しなど)
- コ 利用相談の内容に応じて、子育てサポートシステム以外のサービス等の情報提供や関係機関に適切につないでいるか。
- サ 専門対応が必要と考えられる相談については、専門機関に適切につないでいるか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	○アンケート結果で子育てパートナーの認知度が33%であったため、さらなる周知が必要 ○対応件数が少ないケース(障害児対応等)については、区との連携を深め、さらにスキルアップしていく必要がある	B	B
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。	○区役所が特定のケースに対して、子育てパートナーを利用するように紹介していくことが課題 ○拠点での妊娠期の利用が少ないため、子育てパートナーをきっかけに利用を促進していく必要がある	A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。		B	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

●子育てパートナーの認知率(拠点アンケートより)

	R3年度	R4年度
知っていて相談したことがある	11%	22%
知っているが相談したことがない	41%	43%
合計	52%	65%

●出張訪問件数

R3年度	R4年度
36件	69件

(子育てサロン、ふれあい会、親と子のつどいのひろば、合同育児講座等)

●相談内容(毎月の報告書より)

R3年度(総数534件)		R4年度(総数549件)	
①子どもの発育・発達	20%	①子どもの発育・発達	15%
②就園・就学	18%	①親自身	15%
③地域情報	13%	③子どもの生活	14%

1.妊娠期からの養育者・支援関係者、関係機関に対する利用者支援事業の周知活動を行った。(子育てパートナーという意味を伝えることに尽力した)

- ・拠点のHPや通信、LINE配信中、子育てパートナーの紹介を行い、相談窓口や出張相談日時についても毎月周知した。
- ・拠点内の情報コーナーや授乳コーナーにおいて子育てパートナーの掲示を作成し周知した。
- ・初来所者には丁寧に広場スタッフが拠点を案内し、相談窓口として子育てパートナーも紹介した。
- ・拠点内で開催する事業「スマイルデビュー-day」や「子育てサポートシステム説明会」でも役割を説明し周知の時間を設けた。
- ・関連機関の定例会に参加(子育て関連施設連絡会、支援者定例会、センター園会議、センター会議、みんなの窓口会議、自立支援協議会)、保育園や幼稚園、児童発達支援機関を訪問し周知した。
- ・親と子のつどいのひろばや子育てサロン、ふれあい会に出張し、子育てパートナーの役割を説明するなど周知に努めるとともに、その場で相談対応も行った。なお、親と子のつどいの広場については「子育てパートナーと遊ぼう」というイベントに合わせて訪問した。
- ・子育てパートナーの紹介動画を制作し、乳幼児健診時に流してもらうことで、子育てパートナーを周知した。
- ・赤ちゃん教室や子育て支援者会場の全会場に出張し、周知に努め、その場でコミュニケーションを取った。
- ・「子育てパートナーさんのお出張相談日」を設け、区役所のキッズスペース横に出張しパートナーの周知と相談を行った。
- ・拠点内で「子育てパートナーとおしゃべりしよう」を月1回開催し、子育てパートナーの紹介と養育者が気軽に相談できるきっかけ作りを行った。
- ・「子育てパートナーとZoomで相談」を月1回開始し、拠点に来られない人でも相談できるようにした。
- ・区や拠点が開催する「プレババママクラス」でも紹介した。また、チラシを作成して母子手帳交付時やこんにち赤ちゃん訪問時に配布するとともに、保健師や助産師が訪問する際にも配布してもらい周知した。

2. 相談者に寄り添いながら、丁寧に個別相談を行い適切な支援を行った。

- ・安心して相談できるような雰囲気づくりに努めた。またゆっくり相談できるように拠点スタッフと協力して子どもを見守ってもらう体制ができた。相談内容によっては場所や時間にも配慮してじっくり相談できる仕組みを作った。
- ・相談室周りに音楽を流し、相談内容が聞こえないよう、また相談者が話しやすいよう工夫した。
- ・子育てパートナーにいつでも相談できるように、受付に「パートナーさんがいます・いません」の案内を作ったところ、その案内を確認して声を掛けてくる養育者が多くおり、設置した効果を実感することができた。
- ・傾聴に努め、困りごと全体と一緒に引き出すように心がけた。また、一度つなごうとした養育者には継続的に支援できるようこまめに声掛けをして、顔の見える関係性を作った。
- ・相談内容によって、区と適宜連絡を取り合い、支援方法を検討した。また区の保健師が子育てパートナーを紹介し、その後の利用にもつながった。
- ・相談内容によっては、拠点内の専門相談に速やかにつなげ、その後も役割を確認しながら継続して支援を行った。
- ・繋がっていない関係支援機関にも訪問し、顔の見える関係を作り、相談者をスムーズに紹介できる体制にした。またその相談者が再訪した場合には、その後の状況を把握し継続的な関わりを持つことができた。
- ・毎月区とケース会議を持ち、振り返りや共有を行った。
- ・いつでも相談や支援に対応しやすいように、拠点スタッフと協力して情報コーナーを常に整備更新した。

3.拠点のネットワークを活かし、関係機関や地域の資源と連携した。
 ・拠点のネットワークを活用し、区内全ての地域の子育てサロンやふれあい会、親と子のつどいのひろばに出かけ、子育てパートナーの周知や相談できることを周知し、情報共有をすばやくできる仕組みを作った。
 ・子育て支援者会議に毎月参加し、必要な情報提供を行った。
 ・区内の会議や研修に参加し、顔の見える関係になった。相談専門機関が行っている「みんなの相談窓口」会議に毎回出席し、子育て支援に限らず、多世代の多様な相談内容について、適切な機関につないだ。
 ・個別相談や養育者のニーズから、一般社団法人ダブルケアサポートと連携して、子育てと介護を同時に行っている親子のための「ダブルケアカフェ」を実施したほか、スマイル・ポートを以前利用していた保護者に先輩ママとして来てもらい、発達に不安がある親子のためのトークイベント「ゆるっとトーク」を実施や、ダウン症児のための「おしゃべりの会」の実施、公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)と連携して「外国につながる親子のためのイベント」を開催した。
 ・支援が必要な養育者には、区や関係機関と情報を共有の上、対応した。
 ・母子保健コーディネーターと連携し、プレバママのためのイベントや外国につながる家庭へのイベントの周知依頼をした。
 ・障害児をもつ家庭への支援として、相談機関と行う「〇△□の会」でもメンバーとして中心的な役割を果たした。
 ・2月のダブルケアイベントの後、法人からの調整で、タウンニュースに拠点の子育てパートナーの話が掲載された。(再掲)

評価の理由(区)

①乳幼児健康診査やプレバママクラス開催時にスマイル・ポートが作成した動画等を放映し、広く子育て世帯に対して拠点の利用者支援事業を周知している。また、子育てパートナーに見守ってほしい養育者や子どもを必要時につなぎ、区以外にも相談できる機会をつくっている。
 ②月1回の定例会や必要に応じて、子育てパートナーの対応への助言や区でどのような支援ができるのかなどを共有している。また、関係機関の特徴や役割について情報共有し、パートナーが適切な対応をとることができるよう支援している。
 ③地域の関係機関や社会資源の情報を共有している。また、子育て支援者や母子訪問員の定例会、区の事業開催時などに子育てパートナーが参加できるよう調整した。

拠点事業としての成果と課題

(成果)
 ・子育てパートナーの紹介動画を作成し、区の事業で放映するなど、様々な場において子育てパートナーの周知を行うことで、認知度が向上してきている。また、地域の子育て支援の場等に足を運ぶなど、出張訪問件数を増やすことで、地域とのネットワークづくりも行った。
 ・子育てパートナーと区職員の間で相談しやすい関係性が構築できており、相談者に寄り添った支援を連携して行うことができた。
 (課題)
 ・子育てパートナーの認知度向上に向け、引き続き、養育者や地域の子育て支援活動者向けに周知を行う。また、養育者の多様なニーズや相談に対応するため、引き続き地域の子育て資源を把握していく。

振り返りの視点

- ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。
- イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。
- エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。
- オ 拠点内でおパートナーの役割を理解し、日頃から相談者を拠点内ですなげ合うことについて、お互いの役割分担を明確にしたうえで、相談対応・利用支援を行っているか。相談者の相談内容に応じて継続対応やつなぐ必要性を判断し、対応しているか。
- カ 専門的な対応を要する相談に対して、相談内容と相談者のニーズを踏まえ、速やかに関係機関への紹介・仲介・支援依頼を行うなど、適切な対応をとっているか。
- キ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら、フォローをしているか。
- ク 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点で振り返りや検討を行っているか。
- ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。
- コ 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。
- サ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整、提案や新たな創出につなげているか。

協働事業プロセス相互検証シート

1 事業計画段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・定例会の中で、イベントなどの課題について共有し、どのように事業を進めていくかを検討することができた。
・区の事業について、新規事業については随時共有ができていたが、既存事業については共有が不十分だった。

【今後改善が必要と思われること】

・今後、事業をさらに充実させていくために、評価指標や役割を明確にしたうえで事業を計画する必要がある。
・事業計画に生かせるよう、区が保有している統計データ(地域別の出生傾向等)の共有方法について検討していく。

2 事業実施段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

事業に関する課題が生じた際は、随時共有し、ともに課題解決に向けて取り組むことができた。

【今後改善が必要と思われること】

子育てに関するニーズが複雑化しているため、相手の状況や社会情勢等に応じてより柔軟に対応する必要がある。

3 事業の振り返り段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・定例会や半期ごとの振り返り等で、事業実施にあたっての課題を共有している。
・拠点と区が個々に把握しているデータを十分に生かしてない。

【今後改善が必要と思われること】

・定例会で事業の振り返りを行っているが、時間に限りがあるため、課題があった部分の共有に留まってしまふことが多い。別途、機会を設けて振り返りを行い、良かった点も共有し、好事例を展開していくといった事業への生かし方が必要。
・拠点と区が個々に把握しているデータを活用・分析して、事業に生かしていく。